



まちづくり推進課 ☎(32)6062

まちなかほっと通信

～まちなか再生総合プロジェクト（CAP）プログラムパート3が始まります～

CAP : Central Tomakomai Active Project

本市ではまちなかのにぎわいや利便性を高め、人口減少や高齢化が進んでも、安心して暮らし続けることができるまちづくりを進める「まちなか再生総合プロジェクト（通称CAP＝キャップ）」に取り組んできました。そしてこの春からはいよいよ、新たに子どもたちや若い世代との連携を取り入れた「CAP3」がスタートします。

今回は、CAP3の計画づくりに至る背景や考え方、主な事業についてご紹介します。

まちなかが抱える問題

生活に必要な都市機能が集まるまちなか（中心市街地）に対して、本市ではさまざまな取り組みを展開してきました。しかしながら車社会の進展、居住人口の減少などに加え、大型店の郊外立地など、商業環境の変化により、まちなかのにぎわいや人通りが減少してしまいました。

そのような中、まちなかを再生させて、進みつつある人口減少や高齢化社会に対応できる「持続可能なまちづくり」を目指し、平成23年度からCAPに取り組みんでいます。

まちづくりの鍵を握る「まちなか」

まちなかの再生を進めるのには、3つの大きな利点があるからです。

①投資の効率性

まちなかはすでに道路、上下水道などの都市基盤が整備されており、この部分について新たな投資を行う必要がありません

②都市機能の集約

住居、商業、公共、福祉、医療施設などの都市機能が集まっています

③公共交通の利便性が高い

JR、バス、タクシーといった公共交通の利便性が高い場所です

これらの利点を上手に生かし、さらにまちなかの魅力を高めることで、「持続可能なまちづくり」を実現していきます。

平成23年度～平成25年度

CAP 1

“長期的な都市運営の観点からまさびへの考え方を見直す”

■苦小牧市公式キャラクター「とまチヨップ」PR事業

市内外のイベントへの出演、商品化、ブログやフェイスブックを通して地域情報などを発信し、まちなかのPRを行いました。



■まちなかインフォメーション事業

FMラジオ番組を制作し、胆振管内や札幌圏などへ、まちなかの名所・名店、イベントの情報などを発信しました。



■快速バス

公共交通の利便性の向上を目的に、札幌・苫小牧間を結ぶ都市間バスの一部路線を変更して運行を開始しました。

■市営住宅まちなか移転事業

「旧新団地建替事業」において、まちなかに市営住宅の一部（120戸）を移転させ、まちなか居住の推進を図りました。

